

年頭のご挨拶

院長 樋口 次男



明けましておめでとうございます。新しい年を迎える慶びを皆さんと一緒に分かち合いたと思います。さて、新年早々に厳しい話題となりますが、医療に従事する私達にとって昨年の最も大きな話題は何といっても診療報酬の改定ではなかろうかと思われます。苦しい経営状況に追い打ちをかけるように史上最大のマイナス(3.16%)となったことで、将来に向けての展望は暗い材料ばかりです。その様な状況の中で職員特に看護部の皆さんの協力を得て、一般病床入院基本料1(看護基準7:1)を取得出来たことはせめてもの救いとなりましたが、今年度上半期の収支バランスは昨年にも増して厳しい結果となっております。

国の医療費増大の原因の一つとして、しばしば引き合いに出されるのがわが国の急速な高齢化率であります。北欧あたりの国々が100年以上かかったところを25年くらいのスピードで高齢化率が進んでいるとのことですが、国はこの可能性について人口動態などを踏まえてすでに予測している筈でありながらまるで他人事、つまり長生きをすることが国の医療財政を圧迫している元凶であるかの如き表現をしており、医療に従事する者の一人として大変残念に思います。

又、介護老人保健施設に対しても平成17年10月より食費および住居費が利用者負担となり、また介護報酬の引き下げ、更には平成18年4月より通所リハビリテーションが一部包括になるなどの改定があり施設運営は直接および間接的に多くのマイナス影響を受けております。

また一方で、現在全国にある療養病床38万床の中23万床を在宅にという厚労省の取り組みがあるようですが、受け皿(自宅での受け入れ態勢)がなければ老人保健施設が先ず第一にその対象になると思われるので、入所待ちの期間は延びるばかりです。そこで国は、“広義の在宅”と称してグループホームとかケアハウスとかの呼び名でユニット型の有料老人ホームを推奨しております。これでは差額徴収等による国民の負担は増え続ける結果、所得水準による利用形態の分断が進み、アメリカ型の保険制度と実質は何ら変わらなくなってしまうのではないのでしょうか。格差社会という言葉が最近しばしば耳にしますが、平等であるべき

済生会 だより ～まえばし～



社会福祉法人 群馬県済生会前橋病院
〒371-0821 群馬県前橋市上新田町564-1
TEL.027-252-6011 FAX.027-253-0390
<http://www.maebashi.saiseikai.or.jp>

日本の医療や福祉の現場に於いてもこの状況が派生しつつあるような危惧を感じますが杞憂に終わることを願っています。

以上の様な厳しい状況下に於いても医療の現場では更に大きな変革が求められております。当院がクリアしなければならない幾つかの懸案事項の中にDPC(包括医療)がありますが、当院の標榜科目の内容上残念ながら現在でもDPC参入が出来ない状況にあります。しかしながら、近い将来に於いてこれが急性期病院としての必須条件になるようですのでDPC参入を視野に入れつつ、新しい医療に対応していくためにオーダリングシステムの更新に向けての計画を昨年4月よりスタートさせております。その主な目的は、病院経営の中で原価計算を更にはこれを用いて経営分析を行い今後の運営に資するところにあります。この稿がみなさんの手許に届く頃には新しいシステムが既に稼動しているものと思われます。実際の運用に際しては医師や看護師をはじめ殆どの職員に一層の負担がかかるものと推測されますが、皆さんの協力をお願いする次第です。期待と不安が、^な縋い交ぜになつての新しい年のスタートになりますが、お互いにこの一年も大切な且つ有意義な年にしましょう。

「年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず」



～群馬県済生会前橋病院の理念と基本方針～

理
念

愛と希望

基本方針

- 一、私たちは、患者さんに公正な医療を提供します。
- 一、私たちは、患者さんの人格・意志を尊重します。
- 一、私たちは、医療の質の向上をめざし、常に努力します。
- 一、私たちは、地域社会の要望に対応した医療・福祉の充実をはかります。
- 一、私たちは、互いに信頼し、感謝する心で、仕事に取り組みます。

地域連携室 発足のご挨拶



室 長 西田 保二

私たちは、病診連携、 地域医療のコンシェルジュです。

※コンシェルジュとは「案内人」を意味するフランス語で、ホテルのフロント近くにデスクを置き、宿泊客に対し観光案内、劇場・レストランの予約などの手続きを行ってくれる人のことを指します。

済生会前橋病院は急性期専門医療病院として、地域医療の中核を担っています。

平成 18 年 9 月、医療地域連携室が改編され新たに地域連携室が発足しました。従来から医療相談部門として活動していたソーシャルワーカー (MSW) の常駐する医療相談室や、情報広報担当部門のスタッフも加わり、サービス向上のため地域連携部門として独立しました。(ホームドクターと病院の連携プレー：病診連携といいます)

私たち地域連携室のスタッフは、ホームドクター（開業医の先生方）から紹介された患者さんが速やかに診療を受けられることを第一の使命としています。病気にかかり不安を感じたときには、日頃細かな健康管理をしてくださるホームドクターに相談することが多いと思います。

より高度な治療が必要になったとき、ホームドクターから連絡をいただき、速やかに適切な治療を開始できるように、当院各科専門医師とのつなぎ役として、私たち

が診察、検査、入院にかかわる手続きをおこないます。

第二の使命は、ホームドクターや病院間の連携のつなぎ役です。ケースワーカー (MSW) が常駐した医療相談室では、身体的・心理社会的側面から支援を行っており、療養上の不安の軽減を図り、総合的に病院連携のサポートを行います。病院受診、入院、退院時に必要な手続きについて、前方・後方支援の役割を担うことで、在院日数の短縮に貢献します。治療が無事終わり、退院の際には、私たちがご紹介いただいたホームドクターに速やかに連絡し、治療の引継ぎに支障がないよう手配します。

さらに第三の使命は、地域にお住まいの方々の健康管理や広報活動などの地域医療福祉サービスの窓口となることです。地域医療のネットワークの中継基地として、期待されます。

私たちは、プロフェッショナルとして病診連携、地域医療のコンシェルジュであることを心掛けています。病気のこと、医療相談などご心配のことがあれば、一階入退院窓口横に開設された地域連携室、外来中央処置室前の医療相談室にお気軽にお立ち寄りください。

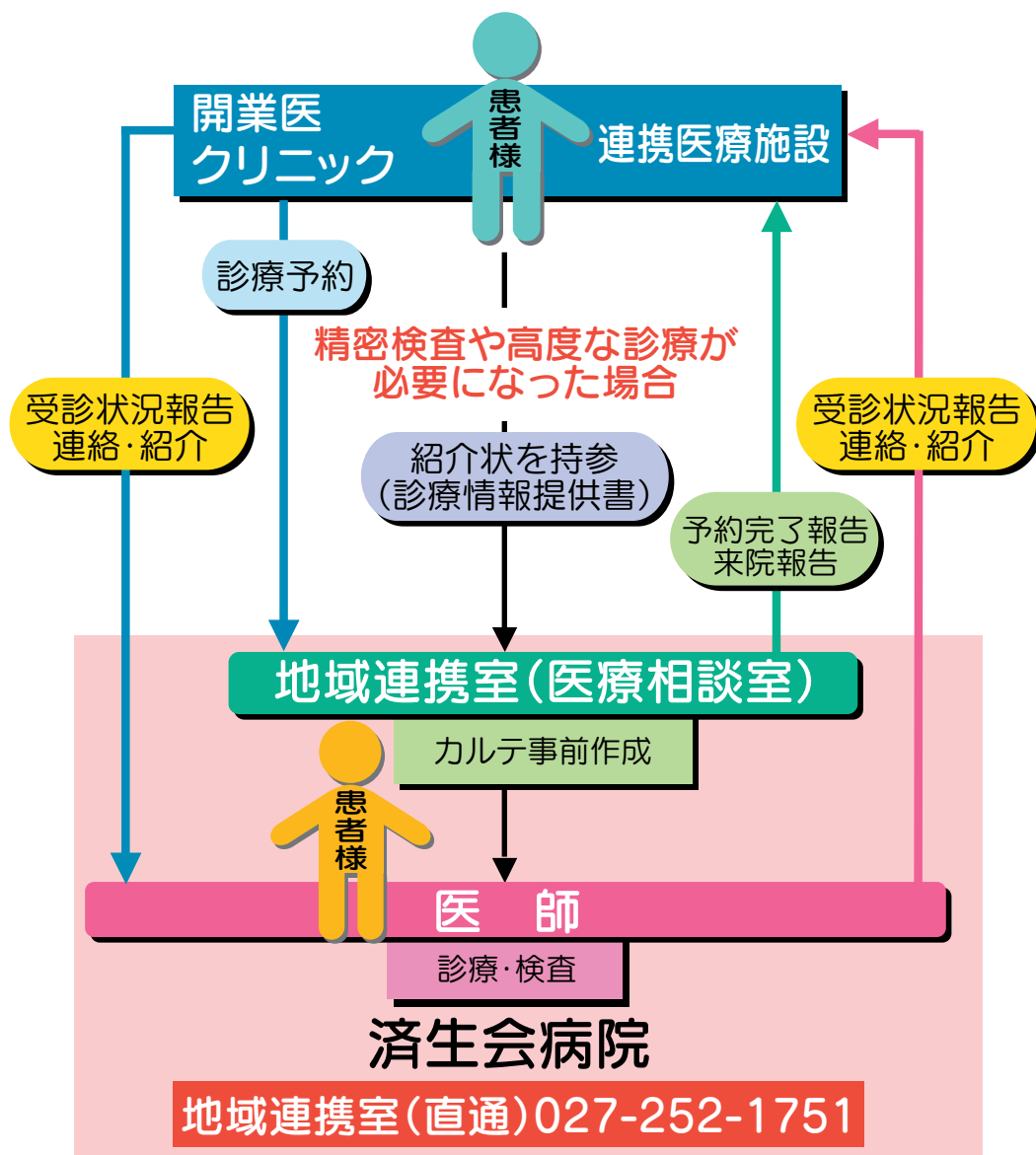


地域連携室のスタッフ

地域連携室の運営方針

- 1) 病院の基本理念である地域社会の医療福祉の充実のための院内のユニットです。
- 2) 医療相談機能の充実により、医療内容や経済的問題の相談を行い、身体的・心理社会的側面から支援していく事で、療養上の不安の軽減を図ります。
- 3) 連携医療施設との入院時・退院後の支援を担うことで、在院日数短縮に貢献します。
- 4) 病院と地域住民の方々との、情報広報活動の橋渡しを担当します。

地域連携システム



医療相談室の紹介



医療相談員 望月 裕子

医療相談室では、専門の医療相談員（ソーシャルワーカー）が、患者さんやそのご家族が抱えている生活上の問題の相談を受け、解決に向けてお手伝いをしています。具体的な相談内容としては、医療費や生活費等の経済的な問題、公費負担や介護保険・その他の社会

福祉制度の紹介、在宅介護の準備や転院先についてなど多岐に渡っております。また、当院では、生計困窮者を対象とした無料低額診療事業を行っているため、それに関連した相談も医療相談室（循環器外来隣り）で受け付けております。相談をご希望の方は、A棟1階の医療相談室に直接お越しいただくか、お近くの職員にお声をかけてください。（予約をしていただくとお待たせしません）

入院や通院に伴い、今まで考えもしなかった問題が生じてくる事が多々あります。そんな時は自分一人や家族だけで悩まず、ぜひ医療相談室にご相談ください。一緒に解決策を見つけていきましょう。

QC 発表大会

第1回 QC サークル大会を開催して



TQM 委員会 QC ディレクター
神田 大輔

TQM: Total Quality Management (総合的質管理)
QC: Quality Control (質の管理)

「当院に来院される患者さんにとって良い医療とは何か、そして、それを実現するには病院・各部署や各職種・職員は何をしたらよいのかを考えよう、そして足りない点を改善しよう」という改善活動を展開するため、当院では本年度より QC サークル活動を始めました。

この QC サークル活動は、もともと産業界で品質向上のために進められた改善活動です。近年、科学技術

の進歩とともに医療が複雑化してきたことから、産業界の品質管理の手法を医療にも積極的に取り入れる試みがなされていて、QC サークル活動に取り組む病院も増えてきました。病院職員の知恵を総動員し、部署（職場）が抱える問題を解決する活動を通じて、職場のチームワークの向上や患者さんとのコミュニケーションの向上、そして明るく活気に満ちた病院（職場）をつくることを目的としています。

先日行われた第1回の大会において、たくさんのチームが約半年間の活動の成果を発表し合いましたが、より良い病院にするための様々なアイデアがみられました。当院に来院されるすべての方に良質な医療を提供したいという私たち職員の思いが伝わるように、今後も地道な努力を積み重ねていければと考えております。



今年各職場が取り組んだ「テーマ」を紹介します。

所 属	テ ー マ	
医 事 課	会計待ち時間を減らす	
整 形 外 科 病 棟	整形病棟における緊急手術書類の準備の迅速化を図る	
薬 局	薬局内における散剤調整の統一を図る	優秀賞 (パフォーマンス賞)
消化器・腎臓内科病棟	退院時の内服薬の忘れを減らす	
あ ず ま 荘	転倒転落防止	
放 射 線 科	一般撮影における再撮を減らす	優秀賞 (アイデア賞)
リハビリテーション科	リハビリと病棟での運動能力の認識の違いを知ろう	
外 科 病 棟	時間外を少なくする	
白血病治療センター	点滴における思い込みミスをなくす	特別奨励賞
小児・一般内科病棟	退院時処方・預かり内服の渡し忘れをなくそう	
事 務 室	コピー代金の削減	
循環器内科・心臓血管外科病棟	情報共有の漏れが 40% 減る	優秀賞 (ベストママ賞)
回 復 期 病 棟	保清の効率化	
透 析 セ ン タ ー	透析終了時間の待ち時間短縮	
M E 室	弁形成時における水試験の準備の改善	ベスト QC サークル賞
外 来	外来中央処置室の連携不備の改善	
検 査 科	外来診察前検査 5 分短縮	
栄 養 科	手洗い栄養	院長賞
手 術 室	手術室における消毒薬の削減を図る	

以上、全 19 サークルが患者さんのために、また活気ある働きやすい職場作りにと様々な改善に取り組みました。発表大会では、外部からの審査員をお招きし、「どれもみな大変有意義な活動である」と講評を頂きました。今後も、職員一人一人が持てる力を十分に発揮し、より良い医療の提供に役立っていければと思います。

尚、当院審査員と職員による投票により全 6 チームが入賞し、忘年会で表彰されました。

(サブディレクター 富所順子)



ありがとうございます

医療の質・安全学会に参加して



白血病治療センター師長
笠原 光子

平成 18 年 11 月 23・24 日、医療の質・安全学会第 1 回学術集会在開催されました。白血病治療センターでは『輸液における思い込みミスを無くすための取り組み』を報告し、院内の方々のご指導とご支援で最優秀賞（ベストプラクティス賞）を受賞いたしました。

今回の取り組みは、短期間に抗不整脈剤や昇圧剤の投与量ミスが連続発生し、センターでの対策が迫られていたことから、QC 活動のテーマとして取上げました。

取り組みは、センターの看護師がチームとしてミスを予防し、発見・修正できる事が重要なポイントでした。看護師個々のレベルを統一する目的でマニュアルを作成し、輸液業務の標準化を図りました。さらに、意識を高揚させるためにポケットサイズのカードを携帯し、業務前の指差し呼称の唱和・タッチアンドコールを行うことで、目標に対して気合を一致させ、チームの一体感・連帯感を盛り上げチームワーク作りに役立てました。ヒューマンエラーを防ぐことは至極困難なことであります。個人が犯したエラーを、患者さんへ影響を及ぼす前に、発見・指摘・修正されることが重要と

なり、チームとしての活動が現場での事故防止に大きな要因となります。ニアミスの報告が増え、目標の達成には至りませんでした。小さなミスの陰に大きなミス（ハインリッヒの法則）を察知した意識の変化であり、今回の QC 活動が看護師個々の意識を高めた結果ではないかと判断しております。

QC サークルメンバーには、QC 活動を通して達成感を味わってくれればと支援してまいりましたが、最高の賞をいただく結果となり嬉しく思っております。たいへんに名誉ある賞を頂きましたが、驕ることなく真摯に受け止め、今後も継続して取り組んでいきたいと考えております。

最後に、QC サークルメンバーを支えてくださった白血病治療センターの先生方、看護師の皆さんに心から感謝いたします。



QC サークルメンバー



花粉症とは



薬剤師 秋山 滋男

花粉症とは、一般的にスギ（ほかにヒノキなどもあります）などの花粉によっておこるアレルギー症状をいいます。くしゃみ・鼻水・鼻づまり・目のかゆみ・流涙が主な症状です。日本で最も多いのはスギ花粉症です。花粉症になると肉体的に苦痛だけでなく、イライラしたり、憂うつになるなど、日常生活に大きな影響を与えることもあります。

花粉症の予防のためには、花粉が飛び始める 2 週間

位前から治療する方法が有効です。そして、シーズン中にも継続して服用することにより症状が比較的軽く済みます。花粉情報に注意し、症状が出始める前から予防対策をすることが大切です。症状が出る前に早めに医師の診察を受け、適切に治療をするよう心がけましょう。

花粉症のメカニズムは？

人の体は体内に入り込んだ異物（抗原）に対して、対抗する物質（抗体）を作って体を守ろうとします。アレルギーとはその反応が過剰なことをいいます。花粉症の場合は花粉抗原に対して IgE 抗体が作られます。

IgE 抗体は花粉抗原との接触を繰り返すうちに体内に蓄積され、一定量に達すると体を守るために花粉を除去しようと攻撃し始めます。これが花粉症の始まりです。

CAPD(腹膜透析)群馬塾を開催



腎臓内科部長 河合 弘進

さる11月26日にCAPD群馬塾(塾長河合)を開催いたしました。これはNPO法人CAPD支援機構の主催で、CAPD普及のためにスタッフを対象に各県で行っているものです。当日は「広がるCAPD療法の適応」のテーマのもと、CAPD支援機構理事長 東京女子医大 佐中 孜教授の開会挨拶に続いて、CAPDオー



高齢者のCAPDの講演中

バービュー(富岡総合病院泌尿器科 町田 昌巳先生)、高齢者のCAPD療法(河合)、CAPD療法の院内体制(原町赤十字病院 渡邊 美幸先生)、高齢者のCAPD看護(西片貝クリニック 今泉俊子先生)、CAPD療法の経済性(西片貝クリニック 若松良二先生)についての講演がありました。お蔭様で遠く福岡、東京も含め50名の方にご参加いただき盛会裏に終了することができました。

持続的腹膜透析(CAPD)と血液透析(HD)は腎不全の治療法としてそれぞれ優れた特徴があり、患者さんの状態に合わせて選択することが可能です。

今回の講演会を機会にCAPD療法に対する理解が深まりその普及の一助になれば大変うれしく思います。



熱心に聴講する皆さん

～お知らせ～ オーダリングシステム更新について



システム更新
ワーキンググループリーダー
吉永 輝夫

2007年1月より当院のコンピュータオーダリングシステムが更新されます。今回の更新で電子カルテ以外のほぼ全ての医療行為のオーダリングがカバーされ、物流システムとの連携により在庫管理や詳細な経営分析が可能となります。

基本コンセプトは三つのサービス向上。すなわち、第一は患者さんへのサービス、第二は患者さんをご紹介いただく連携医療機関の皆さんへのサービス、最後は病院あるいは医療スタッフ自身に対するサービスの向上です。患者さんへのサービス向上としては、順番待ち表示機の刷新・再来受付機の更新・自動清算機の新規導入など主として外来部門を中心とした環境整備、システム性能の向上やデジタル化による各種手続き処理のスピードアップ、リストバンドや患者確認操作の充実による医療事故防止手法の

拡充などがあります。見た目の新しさだけでなく、サービス内容の充実を心掛けました。

医療機関の皆さんへのサービス向上としては、別項にてご紹介の通り病診連携システムの導入が上げられます。詳細は別項に譲りますが、これまで以上にタイトで確実な連携が図れるものと期待しております。一般に作業の効率化と詳細な経営分析を可能にするシステム管理を両立させることは容易なことではありません。このテーマに対する新たな挑戦がすなわち第三のサービス向上に当たります。病院が元気になりスタッフが元気になるから、患者さんも元気になれる。

今回のシステム更新、三つのサービス向上は医療の原点を見直す良い機会になったと考えております。システムの更新で病院は生まれ変わり、より質の高い医療を提供できるものと確信しています。



入念にリハーサル中

外 来 医 師 診 療 表

午前の一般外来

2007/1 ~

	内 科 一般	循環器内科 一般	睡眠障害外来	外 科	小児科	整形外科	リハビリ テーション科	眼 科	産婦 人科	泌尿 器科
月	佐倉・菅	池田		西田・尾嶋	大島	後藤・星野		榎・萩原	群大	鈴木 (群大教授)
火	樋口・河合・神田	福田・広井		細内・横堀	大島	中島一郎 中島慶子		岸・萩原 (群大教授)		
水	樋口・宮脇・吉永	福田・宮崎		西田・大竹	大島	中島一郎 足 立		萩原		
木	家崎・真下 高田・石塚 (呼吸器)	福田・池田		細内・持田	大島	星 野 中島慶子	白倉 (群大教授) 第1,3	萩原	群大	
金	宮脇・戸島	池田 第1,2,3 福田 第4,5,	福田 第1,2,3	西田・尾嶋	大島	後藤・足立		萩原	群大	
土	河村・交替制 内分泌(第1,3) 萩原 呼吸器(第1,3,5) 岡山	福田・池田		交替制	第1: 鈴木 第3: 下山 第5: 鈴木	第1: 中島・足立 第3: 後藤・星野 第5: 後藤・星野		群大		

※産婦人科外来は、人間ドック、及びさわやか検診のみ行っています。

午後の特殊外来

	内 科・循環器内科・心臓血管外科	小 児 科
月	心臓血管外科外来 内分泌外来	喘息・アレルギー・慢性疾患 循環器
火	血液外来	喘息・アレルギー・慢性疾患 〃 (第1)
水	心臓血管外科外来 ペースメーカー外来	乳児健診(第1,3)
木	呼吸器外来	予防接種
金	肝臓外来 内分泌外来	循環器
土	腎臓外来	喘息・アレルギー・慢性疾患 循環器

午前一般外来の受付時間は午前8時30分～午前10時30分です。(診察開始は9時です。)午後の特殊外来は完全予約制です。
休診日は、日曜日、祝祭日、年末年始、第2・4土曜日です。

患者様へ ●さわやか検診のお問い合わせは 医事課窓口 ☎027-252-6011 内線1101までご連絡ください。
●人間ドックのご予約は 検診センター ☎027-252-1959(直通)までご連絡ください。
医療機関様 ●初診(診療・検査・入院等)のご紹介は 地域連携室 ☎027-252-1751(直通)までご連絡ください。
●CT・MRI・内視鏡検査のご予約は 前橋市在宅介護支援センターあずま荘 ☎027-255-1511
介護関連 ●前橋市高齢者福祉サービスのご相談は 居宅介護支援事業所あずま荘

病院案内図



上信バス時刻表案内

行先 時間	中央 前橋駅行	前橋駅行	高崎駅行
7	×06	46	×05 37
8	26		07 46
9	03	43	26
10	23		06 46
11	43	03	26
12	33		16
13		23	06 56
14		13	46
15	53	03	36
16		33	16 56
17	54	13	36
18	33		16 56
19		13 48	33
20	×29		×11

×印は日祝日は運休

交通のご案内

- 新前橋駅よりタクシーで10分
- 前橋駅よりバスで20分
- 高崎駅よりバスで40分

病棟直通電話

《循環器内科・心臓血管外科病棟》

TEL.027-252-1759

ホームページをご覧ください。

<http://www.maebashi.saiseikai.or.jp>